

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202270		
法人名	社会福祉法人 江寿会		
事業所名	グループホーム サンホーム江上 ユニットA		
所在地	長崎県佐世保市江上町4847-10		
自己評価作成日	令和06年9月24日	評価結果市町村受理日	令和7年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 6年 11月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな立地に面しており、環境に恵まれている。地蔵花苑があり外気浴や散歩、ピクニック、花見などを楽しむことが出来る。又、施設からは大村湾が一望でき、ハウステンボスの夜景や花火も楽しむことが出来る。ご家族も希望があれば花火と一緒に見る事もできる。各種委員会や、様々な行事を通じて他部署との交流も出来ており連携がとれている。他にも、実習生の受け入れなどにも積極的に行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は理念にある“その人らしく”生活できるようにを基に、これまでの暮らしに寄り添い尊厳を守る支援に努めている。また、理念に“笑顔”あふれる支援も掲げ、利用者との日常会話や食後の家事をともに行うなど明るく張りのある生活が窺える。法人で各種委員会を組織し、研修ではICT化により全員動画で常時閲覧できるなど質の向上に向けた取組は特長である。更に、管理者は長年法人デイサービスの管理者として在籍しており、デイサービス時代から馴染みの利用者も多く、不安なく過ごせる環境にある。職員は利用者の声のトーンや高低差など些細な変化も見逃すことなく支援し、万全な医療体制も築いている。管理者が就任し1年目であり、地域に開かれた事業所でありたいという考えの下、更なる外出や行事、法人内の各事業所との連携など、地域住民との交流を広げていく方針である。その人らしい生活や笑顔がある暮らしの実現に向け、今後更に期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自己決定・自己意志を尊重し、出来る限り利用者が主体となって生活出来るように、又笑顔が産まれるように支援することを気がけている。	理念にある“その人らしく”生活できるようにを基に、毎日の健康維持に努め、なじみの茶市に外出したり、趣味を継続するなど尊厳を大切に支援している。また、理念には“笑顔”あふれる支援も掲げ、利用者との日常の対話や食後の家事援助を共に行うなど明るく張りのある生活が窺える。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍ということもあり、日常的な交流は図れていないが、地域の保育園に誕生日のカードを毎月渡したりと、出来る範囲で交流を継続している。	地元の大学から実習生を受け入れている他、隣施設での園児によるマーチング開催時には利用者が見物している。管理者の今後地域に開かれた事業所でありたいという考えの下、更なる外出や行事、法人内事業所との連携などにより地域住民との交流を広げていく方針である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れや、コーディネーターを介して地域の人々とも認知症の理解に努めている。また、併設している施設の通所介護事業所との協力体制で地域貢献に取り組んでいる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議を開催し、その場で意見交換会を行っている。近年、コロナ禍において、令和6年度の会議は第3回まで集合体では開催できずに、書面会議で報告と、意見を集約し、サービス向上に活かしている。	コロナ禍のため、今年度も第3回まで書面会議で対応し、第4回から対面による会議を実施している。議事録からは活動内容、利用者の状況の他、詳細な事故報告等が確認できる。欠席した委員にも追って議事録を渡している他、委員からの意見書を回収し、管理者がそれを基にサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の行政役員又は、社会福祉協議会、佐世保市支所、長寿社会課・生活福祉課・包括支援センター等に困難事例等のアドバイスを頂いている。	市担当課職員が定期的に訪問している。職員は行政からオンラインによる研修等に参加している。毎月介護相談員を受け入れている他、行政には電話だけでなく直接出向いて、事業所の状況報告や不明な点を問い合わせ情報を得るなど連絡を密に取りながら、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会活動を中心に、身体拘束適正化についての理解を深め、個別に合わせたケアが計画・実施・評価出来るようにしている。	身体拘束適正化委員会を2ヶ月毎に開いている。年2回の法定研修では、初級、中級、上級と段階毎の研修があり職員は各自空きのある時間に動画による受講が可能である。スピーチロックは都度注意するとともに、センサーの使用については、家族に同意を得た上で毎月検討し、運営推進会議でも検討内容を報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体での勉強会や内部研修の参加や、外部研修などを通じて、虐待防止に向けて取り組んでいる。また、法人に委員会があり、常時活動を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ユニットに成年後見人制度を利用されている入所者がいるので、不明な点は後見人に聞き把握に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約の際や、制度改定の時は、説明を行い、不明な点に関しては説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各利用者には担当の職員を配置しており、利用者の意見等を聞くように心掛けている。また、家族の面会の際には要望等が無いかな確認を取るようにしている。	コロナが第5類移行後に、家族の面会は自由になり、週1回、月1回と居室やリビングで談笑している。また、法人がサンホーム広報誌“えがお”を年2回発行している他、リアルタイムの情報発信として家族の同意を得てInstagramを活用している。利用者から食事の席について要望があると丁寧に説明して対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議を毎月開催しており、そこで意見等の交換の場を設けている。又、必要な時はその都度話し合っている。	各ユニットは毎月会議を開いており、必要な時は合同で行っている。管理者は全ての会議に出席するとともに日頃から職員の様子を気にかけて個別面談している。職員は管理者以外にも相談できる工夫があり、離職率の低さに繋がっていると管理者は考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、常に管理者や職員の状態把握に努めており、各職員が向上心を持って働けるような仕組み作りが行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者から、管理者、各職員への聞き取り等にて、必要な資格・研修の受講への働きかけが行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の勉強会や、老施協、グループホーム連絡協議会、ケアマネジャー連絡協議会など、同業者との交流も多い。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の時点で本人や家族が分からないことや、要望等に耳を傾けながら、本人から安心と信頼を得られるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の段階で家族の要望等を確認している。また、面会の際や電話があった際には、利用者の状態を伝え、不安な事や要望等が無いかなを確認をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設入所に際して、まず優先すべき支援を考え、本人の状態に応じて何が必要であるかを検討するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症の方、介護をする人としての一方的な決めつけでなく、家事を一緒にこなしたりして暮らしを共にする同じ人間同士としての関係を築くように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族との連携を密に取り合い、面会の機会を出来るだけ設け、意見の交換を行う等、共に支えていく関係を築くように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会にも応じ、行きたい所などを尋ねたりしている。しかし、現在はコロナで出来る事が限られているのが現実です。	家族以外では、昔からの顔馴染みの人や友人が訪れたり、電話で会話している。その際は、家族の同意を得ている。利用者には、墓参りや自宅に帰りたいという希望があり、家族の協力を得ながら支援している。家族や友人に手紙を送る利用者には、職員が投函までをサポートしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活や行事等を通じて、利用者一人一人が孤立せず、他者と交流を図れるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設を退所になられても、今後の生活の場が確保できるような他職種と連携を取りながら支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の暮らし方の希望や、意向の把握に努め、難しい場合は可能な限り本人の身になって検討している。	入浴時やリビングなど利用者と職員が1対1になる機会を持ち、思いを傾聴している。市の介護相談員が年に1回訪問しており、会話した内容を事業所に報告している。視力の低下や難聴など、本人の状態に合わせて言葉の抑揚や声のトーンなど工夫してコミュニケーションを図っている。ただし、知り得た情報の共有はこれからである。	利用者の新しい情報は、職員間で共有し支援に活かすために、記録する手段や方法について、検討、取組に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設利用にあたっては、事前調査表を作成する等して、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の個性を尊重し、要望や心身の状態を把握出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者又は計画書作成担当者が、本人や家族の要望に聞き取りを行い、担当職員らと意見を交え、本人の現状に即した介護計画を作成している。	利用開始時に1ヶ月の暫定プランを立て、その後短期3ヶ月・長期12ヶ月の介護計画を作成している。計画作成担当者が、担当職員の意見を取り入れ計画を見直している。面会時や電話で家族の要望は得ている。退院後など主治医の意見等により計画変更するなど、現状に即して対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき、申し送り事項等、個別に記録を残し、職員間で情報を共有し、実践に活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の希望が聞かれる際は、可能な限り対応をさせて頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の開発や、発見を行い、優先順位をつけながら活用し、1人1人が安全で豊かな暮らしが出来るように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時、重要事項説明時にかかりつけ医についての説明を行い十分な理解を求めている。また、他科受診についても可能な限り柔軟な対応を行っているが、ご家族でも協力出来る場合は協力を求めている。その他医療機関、薬局との連携で適切な医療を受けれるように支援している。	現在は全利用者が協力医を受診している。通院は基本的に家族同行であるが、現状は主に職員が支援している。常勤の看護師が健康状態を確認し、夜間緊急時等も主治医との連携により適切に支援している。また、今年度から受診後、調剤薬局が薬を配達する体制に改善しており、受診支援が円滑になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日常生活において利用者の個々の変化や気づきを見落とさず、適宜看護職に報告・相談を行い、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、看護師や地域連携室のSWと連携し、退院に向けての情報交換や情報共有を行っている。入院の場所も多い為、そのケースによって連携と情報共有を取りながら、利用者及び、ご家族の安心に努めるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	自施設では看取りは行っておらず、重度化した場合も含めて、事業所内に併設している特養やユニット型の利用も含めて話し合いを随時、ご家族と取り合うようにしている。	事業所は、看取りを行わない方針であり、法人内の施設へ繋げる仕組みがある。入居時に“重度化した場合の対応に関する確認書”を、本人・家族に説明し同意を得ており、早い段階で利用者の状態を伝えている。また、法人内以外でも家族の意向に沿えるよう協力体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師や、他の事業所・委員会での研修や勉強会に参加することで、急変時や事故の対応について学んでおり、実践に結びついている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的に避難訓練を実施している。また、日中と夜間の想定に分けて実施しており、その都度動きや実施時の反省点について話し合っている。火災に関して事前に防ぐ為の対策も実施している。	年2回総合避難訓練を日中・夜間想定で行っている。内1回は消防設備業者が立会っている他、別日に消防立ち入り検査も入り、助言等を得ている。また、非常災害防止委員会が年間計画を組み、BCP机上訓練動画の配信、台風や大雨など風水害への対策を図っている。ただし、非常持ち出し書類の整備はこれからである。	緊急避難時の管理体制として、非常災害時に利用者が避難先で困らないよう、非常持ち出し書類の整備に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格や生活歴を把握した上で、丁寧な言葉かけを行うように心掛けている。相談の窓口は管理者で行うようにして、個人情報の漏れが無いように努めている。	職員は利用者を苗字にさん付けで呼び掛けており、同姓の場合は、名前で呼ぶこともある。失敗時はさり気なく声をかけて対応している。法人として守秘義務の誓約書を職員から得るとともに個人情報の取り扱いについてプライバシー保護の研修を行い、職員が理解を深めるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望が聞かれる際は、可能な限り実現出来るように職員が本人の希望を表現出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の生活ペースを把握した上で、可能な限り希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々にヘアブラシなどを持たれており、整髪を行われている。又、自身の意志を表現できる方は、好みに応じて上着を選択して頂くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には、毎食後に食器洗いや台拭き等の家事援助を行って頂いている。また、一緒に時間に食事を楽しんで頂けるように配膳等の準備を支援している。	毎食、外部業者の食事を利用している。利用者の咀嚼等の状態に合わせて事業所でキザミ食やミキサー食にして提供している。父の日はおやつ時間にノンアルコールビールとおつまみで祝ったり、学生とおやつ作りでホットケーキを焼いたりして、楽しい時間となるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状況に合わせた食事を提供している。また、食事量・水分量の把握に努め、必要な際に看護師・主治医に相談を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行うように支援している。磨き残しが多い方に関しては、職員が一部介助を行っている。また、定期的に、歯科衛生士による個別の助言も踏まえ、口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1日の排泄を表に記入し、個人の排泄パターンの把握に努めている。便意・尿意が無い方に関しては、時間を見ながら声掛けや誘導を行っている。	職員は利用者ごとに排泄チェックしながら、パターンを把握しており、失敗しないように支援している。そのため、日中はリハビリパンツや布パンツで過ごしている。夜間帯にポータブルトイレを利用している利用者もいる。パッドは本人の状態に合わせて検討し、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝から牛乳製品を提供したり、午前中の集団体操を取り入れるなど、個々に応じた便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回以上の入浴を実施している。また、入浴剤の使用や季節感を感じる入浴剤を使用し、楽しんで頂ける入浴支援を実施している。	週2回の入浴を支援しており、職員は、広い浴室に利用者と1対1で対応している。入浴拒否の時には、声掛けを工夫したり、時間をずらすなどして、無理な時には翌日に延期している。シャワー浴は寒くないように足湯と合わせている。季節の菖蒲湯やゆず湯、入浴剤を入れて、入浴が楽しい時間になるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の意向に沿って、お昼寝や、休息など、個々の状況に応じて自由に行えるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬前に職員2名体制で、日にち・名前・いつの薬かの確認を行った上で、与薬している。また、内服薬が変更になった際には、申し送りノートに記載し、職員間での情報共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に応じて家事援助の支援をして頂いたり、行事やレクリエーション、散歩、外出等を通じて、他者との交流や気分転換を図る支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の概念が根強く、公共性のある場所には日常的な外出支援は難しいが、外気浴や、散歩等身近な場所への支援は行えている。	コロナが第5類に移行してからは、外出ができるようになっており、茶市に出掛けた利用者が漬物などを購入して楽しんでいる。普段は敷地内を散歩して気分転換出来るよう支援している。リビングからハウステンボスの花火大会を見物する楽しみもある。ただし、日常的に外出する支援はこれからである。	季節に合わせた外出だけでなく、同法人である近隣のデイサービスの企画に参加するなど、利用者が戸外に出掛ける機会について更なる工夫、検討が望まれる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各個人の小口現金を管理しており、必要に応じてご家族や保証人の方にも同意を得ながら使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている利用者もおり、必要に応じて本人様のかけたいタイミングで自由にご家族や、知人と連絡が取れるように支援している。また、法人の電話も必要に応じて使用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日共用スペースは朝・夜間2回 清掃を行い、清潔を保つようにしている。また、壁面には職員・利用者が共同で作成した作品を飾り、季節感を取り入れている。	吹き抜けのあるリビングは明るく開放感がある。利用者はテレビを囲みソファに腰掛け、歌番組を観たり、テレビ体操に取り組んでいる他、テーブルで新聞を読んだり、職員と季節の壁飾りを制作するなど活動の様子が窺える。リビング、廊下などは掃除が行き届いており、浴室の個別ロッカーなども整理整頓し快適な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のスペースにはソファを設置しており、気の合う方と談話されたり、一人でくつろいだり過ごされている。定期的に、家具の配置を変えて、一人一人の思いにコミュニケーションが図れる居場所作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具や、思い出の写真を居室に配置することにより、居心地よく生活して頂けるように支援している。	事業所備付の筆笥があり、持込みの制限はなく本人の衣装ケース、卓上鏡、テレビを配している居室もみえる。また、枕元にはヘアオイルや髭剃りを置き、家族の写真や家族から届いた手紙を目に入る位置に掲示するなど、本人が安心できる環境である。入居時は個別に加湿器持参を定め全室完備し、温湿度を管理している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の動線を把握した上で、家具の配置や障害物などは無いかに注意しながら安全に生活して頂けるように支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202270		
法人名	社会福祉法人 江寿会		
事業所名	グループホーム サンホーム江上 ユニットB		
所在地	長崎県佐世保市江上町4847-10		
自己評価作成日	令和06年9月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 年 月 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな立地に面しており、環境に恵まれている。地蔵花苑があり外気浴や散歩、ピクニック、花見などを楽しむことが出来る。又、施設からは大村湾が一望でき、ハウステンボスの夜景や花火も楽しむことが出来る。ご家族も希望があれば花火と一緒に見る事もできる。各種委員会や、様々な行事を通じて他部署との交流も出来ており連携がとれている。他にも、実習生の受け入れなどにも積極的に行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自己決定・自己意志を尊重し、出来る限り利用者が主体となって生活出来るように、又笑顔が産まれるように支援することを気にかけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍ということもあり、日常的な交流は図れていないが、地域の保育園に誕生日のカードを毎月渡したりと、出来る範囲で交流を継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れや、コーディネーターを介して地域の人々とも認知症の理解に努めている。また、併設している施設の通所介護事業所との協力体制で地域貢献に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議を開催し、その場で意見交換会を行っている。近年、コロナ禍において、令和6年度の会議は第3回まで集合体では開催できずに、書面会議で報告と、意見を集約し、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の行政役員又は、社会福祉協議会、佐世保市支所、長寿社会課・生活福祉課・包括支援センター等に困難事例等のアドバイスを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会活動を中心に、身体拘束適正化についての理解を深め、個別に合わせたケアが計画・実施・評価出来るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体での勉強会や内部研修の参加や、外部研修などを通じて、虐待防止に向けて取り組んでいる。また、法人に委員会があり、常時活動を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ユニットに成年後見人制度を利用されている入所者がいるので、不明な点は後見人に聞き把握に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約の際や、制度改定の時は、説明を行い、不明な点に関しては説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各利用者には担当の職員を配置しており、利用者の意見等を聞くように心掛けている。また、家族の面会の際には要望等が無いか確認を取るようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議を毎月開催しており、そこで意見等の交換の場を設けている。又、必要な時はその都度話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、常に管理者や職員の状態把握に努めており、各職員が向上心を持って働けるような仕組み作りが行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者から、管理者、各職員への聞き取り等にて、必要な資格・研修の受講への働きかけが行われている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の勉強会や、老施協、グループホーム連絡協議会、ケアマネジャー連絡協議会など、同業者との交流も多い。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の時点で本人や家族が分からないことや、要望等に耳を傾けながら、本人から安心と信頼を得られるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の段階で家族の要望等を確認している。また、面会の際や電話があった際には、利用者の状態を伝え、不安な事や要望等が無いかなを確認をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設入所に際して、まず優先すべき支援を考え、本人の状態に応じて何が必要であるかを検討するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症の方、介護をする人としての一方的な決めつけでなく、家事を一緒にこなしたりして暮らしを共にする同じ人間同士としての関係を築くように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族との連携を密に取り合い、面会の機会を出来るだけ設け、意見の交換を行う等、共に支えていく関係を築くように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会にも応じ、行きたい所などを尋ねたりしている。しかし、現在はコロナで出来る事が限られているのが現実です。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活や行事等を通じて、利用者一人一人が孤立せず、他者と交流を図れるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設を退所になられても、今後の生活の場が確保できるような他職種と連携を取りながら支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の暮らし方の希望や、意向の把握に努め、難しい場合は可能な限り本人の身になって検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設利用にあたっては、事前調査表を作成する等して、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の個性を尊重し、要望や心身の状態を把握出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者又は計画書作成担当者が、本人や家族の要望に聞き取りを行い、担当職員らと意見を交え、本人の現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき、申し送り事項等、個別に記録を残し、職員間で情報を共有し、実践に活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の希望が聞かれる際は、可能な限り対応をさせて頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の開発や、発見を行い、優先順位をつけながら活用し、1人1人が安全で豊かな暮らしが出来るように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時、重要事項説明時にかかりつけ医についての説明を行い十分な理解を求めている。また、他科受診についても可能な限り柔軟な対応を行っているが、ご家族でも協力出来る場合は協力を求めている。その他医療機関、薬局との連携で適切な医療を受けれるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日常生活において利用者の個々の変化や気づきを見落とさず、適宜看護職に報告・相談を行い、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、看護師や地域連携室のSWと連携し、退院に向けての情報交換や情報共有を行っている。入院の場所も多い為、そのケースによって連携と情報共有を取りながら、利用者及び、ご家族の安心に努めるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	自施設では看取りは行っておらず、重度化した場合も含めて、事業所内に併設している特養やユニット型の利用も含めて話し合いを随時、ご家族と取り合うようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師や、他の事業所・委員会での研修や勉強会に参加することで、急変時や事故の対応について学んでおり、実践に結びついている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的に避難訓練を実施している。また、日中と夜間の想定に分けて実施しており、その都度動きや実施時の反省点について話し合っている。火災に関して事前に防ぐ為の対策も実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格や生活歴を把握した上で、丁寧な言葉かけを行うように心掛けている。相談の窓口は管理者で行うようにして、個人情報の漏れが無いように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望が聞かれる際は、可能な限り実現出来るように職員が本人の希望を表現出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の生活ペースを把握した上で、可能な限り希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々にヘアブラシなどを持たれており、整髪を行われている。又、自身の意志を表現できる方は、好みに応じて上着を選択して頂くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には、毎食後に食器洗いや台拭き等の家事援助を行って頂いている。また、一緒の時間に食事を楽しんで頂けるように配膳等の準備を支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状況に合わせた食事を提供している。また、食事量・水分量の把握に努め、必要な際に看護師・主治医に相談を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行うように支援している。磨き残しが多い方に関しては、職員が一部介助を行っている。また、定期的に、歯科衛生士による個別の助言も踏まえ、口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1日の排泄を表に記入し、個人の排泄パターンの把握に努めている。便意・尿意が無い方に関しては、時間を見ながら声掛けや誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝から牛乳製品を提供したり、午前中の集団体操を取り入れるなど、個々に応じた便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回以上の入浴を実施している。また、入浴剤の使用や季節感を感じる入浴剤を使用し、楽しんで頂ける入浴支援を実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の意向に沿って、お昼寝や、休息など、個々の状況に応じて自由に行えるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬前に職員2名体制で、日にち・名前・いつの薬かの確認を行った上で、与薬している。また、内服薬が変更になった際には、申し送りノートに記載し、職員間での情報共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に応じて家事援助の支援をして頂いたり、行事やレクリエーション、散歩、外出等を通じて、他者との交流や気分転換を図る支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の概念が根強く、公共性のある場所には日常的な外出支援は難しいが、外気浴や、散歩等身近な場所への支援は行えている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各個人の小口現金を管理しており、必要に応じてご家族や保証人の方にも同意を得ながら使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている利用者もあり、必要に応じて本人様のかけたいタイミングで自由にご家族や、知人と連絡が取れるように支援している。また、法人の電話も必要に応じて使用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日共用スペースは朝・夜間2回 清掃を行い、清潔を保つようにしている。また、壁面には職員・利用者が共同で作成した作品を飾り、季節感を取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のスペースにはソファを設置しており、気の合う方と談話されたり、一人でくつろいだり過ごされている。定期的に、家具の配置を変えて、一人一人の思いにコミュニケーションが図れる居場所作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具や、思い出の写真を居室に配置することにより、居心地よく生活して頂けるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の動線を把握した上で、家具の配置や障害物などはないか注意しながら安全に生活して頂けるように支援している。		